



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

健康長寿

歯科保存科 科長 久光 久

昭和大学に奉職して35年目の今年、定年を迎えますが、歯科病院で多くの患者様の治療を担当させて頂き、沢山の経験を積ませて頂きました。心から感謝申し上げ、皆様の健康長寿を願っております。

日本は超高齢社会に突入しましたが、誰もがいつまでも若々しく、健康で、美しくそして快適な生活を送ることを希望しています。日本人の平均寿命は、男性79.64歳(世界4位)、女性86.39歳(世界1位)ですが、自立して生活できる健康寿命は平均寿命より約7年短く、健康寿命を延ばして平均寿命に近づけることが大きな課題となっています。歯は健康のバロメーターです。歯が少ない高齢者は歯が多く残っている人より重い疾患を抱え、入院費や薬代がかさんでいることが大規模調査で明らかになっています。

生活習慣病である歯周病は歯の喪失原因の40%を占めておりますが、気が付いた時にはすでに手遅れになっていることが多く、サイレントキラー「静かな殺し屋」とも呼ばれています。歯周病は口の中だけにとどまらず、心疾患、糖尿病、妊娠など全身の健康そのものに深く影響を与え、重度になると心筋梗塞、早産、動脈硬化、誤嚥性肺炎などの症状を起こす可能性が高まるとされております。

平成17年の歯科疾患実態調査によると、我が国の歯周病潜在患者数は9000万人(成人の約8割)にのぼりますが、歯周病で歯科を受診している人の数は130万人(1/70)に過ぎません。

コロンビア大学神経学講座の調査で、認知機能が重度の歯周病で大幅に低下することが明らかとなり「高齢者の思考能力を良好に維持するためには定期的な歯科の受診が大切である」と

結論づけています。

米ハーバード大のグループが12年間かけて4万人を追跡調査し「歯周病が脳梗塞につながる恐れがある」との調査結果を報告しています。

米国心臓協会の学術大会で、台湾の10万人の国民健康保険の12年間の資料から、毎日の歯磨きに加えて定期的に歯科医院で歯石除去を行うことにより、口腔内の衛生が保たれ、将来の脳卒中・急性心筋梗塞のリスクが低下することが裏づけられたとの報告がありました。

定期的に歯科を受診してメンテナンスを受けることが歯の喪失予防、健康長寿、快適な老後生活につながるということが明らかになっていますが、日本では定期的に歯科を受診している人はわずか16%にすぎません。さらに、歯や口腔に異常を感じている人が62.7%もいるのに、歯科を受診して治療している人はわずか11%というデータもあります。

歯を清潔に美しく保つことは健康維持につながるだけでなく、他人に対するエチケット、身だしなみともなり、まさに予防に勝る治療なしということも出来ます。

平成23年8月に歯科口腔保健法が成立しましたがこの中の第6章に(国民の責務)として定期的な歯科の受診が努力義務として明記されています。

健康長寿のためにも、歯が悪くなってから歯科を受診するのではなく、歯が悪くならないようにするために昭和大学歯科病院のリピーターとなって定期的に歯のメンテナンスを受けて下さい。





私は昭和58年1月に歯学部第一補綴学教室の助教授として赴任し、冠橋義歯学の教育、顎口腔系の正常機能と異常機能に関する研究、歯科補綴と顎関節症の治療を行なってきました。

平成4年4月1日から13年3月31日の9年間、藤が丘病院に歯科室を開設し、初代の科長として週に3日出向し、一般歯科として藤が丘病院の教職員や入院患者、院内の他科、一般歯科診療医院からの紹介患者に対する歯科治療を行ないました。歯科室の開設に際しては、藤が丘病院の皆さまのご支援と、器材の準備、等では、当時、歯科病院で衛生士の係長であった古澤澄江さんらのご協力に感謝しております。開設当時の衛生士には、その古澤澄江さんと辻美枝子さんのベテランが就任して頂いたお陰で、極めて順調に開始し、今日まで継続できたと思っております。私が藤が丘を留守にする際は、歯科病院他科の先生方のご協力を頂き、週日、歯科室での診療を実施できたことを感謝しております。現在、藤が丘病院歯科には常勤の歯科医1名が勤務しており、通常の歯科治療の中、入院患者の口腔ケアを担当し、本学の掲げるチーム医療の一環を支えていることを開設した者として、大変に嬉しく思っています。

平成13年4月1日に歯科病院に戻り、新カリキュラムの作成や共用試験CBT、など教育に関与するようになりました。

平成16年9月に歯科病院に新しい診療科が複数できた際、「顎関節症科」も開設され、初代の科長に就任しました。以来、顎関節症科の運営に当たりましては、当科の開設に際して、口腔外科から片岡竜太先生、補綴科から船登雅彦先生、阿部有吾先生のご協力を得ることができ、ま

た、兼任講師として羽毛田匡先生が第2,4水曜日に、毎週水曜日の午前中は、内藤貴美子先生(口腔解剖)にもお手伝い頂き、今日まで、顎関節症の患者さんを中心に診療を行なってきました。その後、渡邊友希先生が片岡竜太先生のサポーターとして加わり、平成23年4月には助教(員外)として補綴科に入局した吉澤亜矢子先生が月曜から水曜日の3日間、当科の診療に加わり、診療態勢も充実してきました。更に、平成23年度からスポーツ歯科外来を併設し、関根陽平先生を兼任講師としてお招きし、診療内容の拡充を図っております。

顎関節症は、齲蝕、歯周病に次ぐ第3の歯科疾患と言っても過言でなく、これに対応できる歯科医は極端に少ないため、毎日、多くの患者さんが当科を受診しており、毎月の延べ患者数は約500名、新患数は、年間約700名と盛況を極めております。それらの患者さんの多くは一般歯科医院からの紹介患者が殆どで、当歯科病院の掲げる病診連携に大いに貢献していると思えます。このように顎関節症科は、本学歯科病院には無くてはならない診療科として定着してまいりました。当科は、診療のみならず教育にも積極的に参加しており、5年生の臨床実習では、新患の医療面接、診察、検査を実際に体験させる診療参加型実習を行なっております。今後とも当科の発展に皆様のご協力を節にお願い致します。

昭和大学歯科病院とは29年余りのお付き合いでしたが、本年3月に定年を迎えることに成りましたが、本当に長い間皆様に御世話になりましたことを感謝致します。



致します。

退任のご挨拶

歯周病科 准教授 鈴木 基之



本年3月31日に定年退職いたします。本当に長い間お世話になりました。

思い返せば1979年以来30有余年にわたり恙無く勤務することが出来ました

のは、多くの患者さんをはじめ昭和大学の教職員の皆さまとの出会いによるものと感謝しております。

現在日本は高齢化社会となり、また折からの不況の中、昨年の東日本大震災により本当に厳しい状況となりました。これらのもと歯科界もここ数年大改革を迫られております。

一方歯科医療も再生療法、インプラント治療と格段の進歩を遂げております。

私が歯科医になった頃の、う蝕の氾濫は治まり、現在では歯周病で抜歯される割合が多くなっております。しかしこの数年残存歯の増加が言われており、自分の歯で一生を過ごす方が増加しております。

歯医者になってすぐに総義歯を無くすことを目標に頑張ってきましたが、数年前には総義歯学の教室名がなくなり、教室名の変更が行われました。最近では歯周病と全身の疾患との関連が言われるようになりましたが、全身の病気の予防にもプラークコントロールが重要なようです。あと30年後に教室名変更講座は何か？

これを楽しみに皆さん歯磨きを丁寧に行いましょう。

退任のご挨拶

歯科補綴学教室 准教授 割田 研司



平成24年3月末日をもって定年退職となります。昭和52年、開設されたばかりの昭和大学歯学部第一歯科補綴学教室に、歯学部卒業と同時に入局し、

歯科医師としての人生をスタートして以来、35年の月日が過ぎようとしています。当初、補綴科には1講座(教授以下7名のスタッフ)しかなかったため、右も左もわからない卒直後の歯科医師も多くの業務をこなさなければなりません。まずは器材の調達から始まった歯科病院の開院準備に、開院後には外来診療に、学生教育の準備に、研究にと先輩たちの背中を追いかけながら走り回り、忙しいながらも充実した日々を送っていたことが懐かしく思い出されます。

その後、幾度かの改組を経て、順調に発展してきた今日の歯科病院、補綴科を見ると、文字通りに隔世の感があり感慨深いものがあります。35年もの長い間、歯学部の教員として大過なく勤めることができたことは、昭和大学歯科病院教職員の皆様のお陰と深く感謝しております。

歯科医師過剰が叫ばれて久しく、社会の変化に伴い歯科医療に対する患者さんのニーズも大きく変化し、多様化している中、近年は歯学部入学志願者の減少と、歯科界を取り巻く環境には依然として厳しいものがあります。しかし、昭和大学歯科病院はこれからも変化する社会環境に対応しながら、更に発展していくことと確信しています。

皆様のご活躍とご多幸をお祈り申し上げますとともに、改めて長い間ありがとうございました。

長年医療を支えて下さり有難うございました

長年、昭和大学歯科病院のチーム医療のメンバーとして歯科医療を支えて下さった方々が退任されます。

中央技工室係長 津田 一 技工士、看護部主任 布川桂子 看護師、同部 風間ヨシ子 看護師の3名の医療職の方です。

本当に長年にわたり色々お世話になりました。有難うございました。

病院広報委員長 高橋 浩二



中央技工室係長 津田 一

平成23年度病院長表彰

平成23年度病院長表彰おめでとうございます。

電子カルテ準備委員会委員長 真鍋厚史 先生と委員一同の先生方が電子カルテの導入における貢献で、また薬局長 池田 幸 先生が医薬品安全管理体制の確立と院内感染予防における貢献で平成23年度病院長表彰を受けられました。

先生方、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

病院広報委員長 高橋 浩二



歯科技工士研修生修了式が行われました

歯科病院では優秀な歯科技工士(義歯や冠を作る職人)の養成のために、新東京歯科技工士学校の技工専攻科の研修生を1年間受け入れています。3月7日に修了発表会として、症例発表が行われました。今回で15年目となりますが、1年間の充実した研修ですっかりたくましくなったと感じました。

その後、5名の修了式が行われ、研修生の森田麻美さんが最優秀研修生に選ばれました。会場を移して懇親会が行われ、研修生達の将来の夢などについて和やかに談話しました。来年度も6名の研修生を受け入れる予定です。

患者さまの歯を作らせていただき、また診療の見学もさせていただき、ありがとうございます。また、マンツーマンで研修生を熱心に指導して下さった技工士の方々や、お世話になった歯科医師・スタッフ・事務の方々に厚くお礼申し上げます。

中央技工室長 佐藤 裕二



編集後記

嚥下障害の臨床と研究において世界的権威である米国レッドランズ大学グロハー教授とフロリダ大学クラリー教授をお招きして、3月25日上條講堂で昭和大学摂食・嚥下研究会後援特別講演会を開催しました。249名のご参加を頂き、余剰金を東日本大震災摂食嚥下支援チームに寄付致しました。

口腔リハビリテーション科は、8月の東日本大震災支援チャリティー講習会と合わせ東日本大震災摂食嚥下支援活動に本年度は90万円を寄付することができました。来年度もいくつかの支援活動を企画しております。立ち上がれニッポン！！

(K.T)